

学校評価

調査結果と考察



葛城市立新庄北小学校

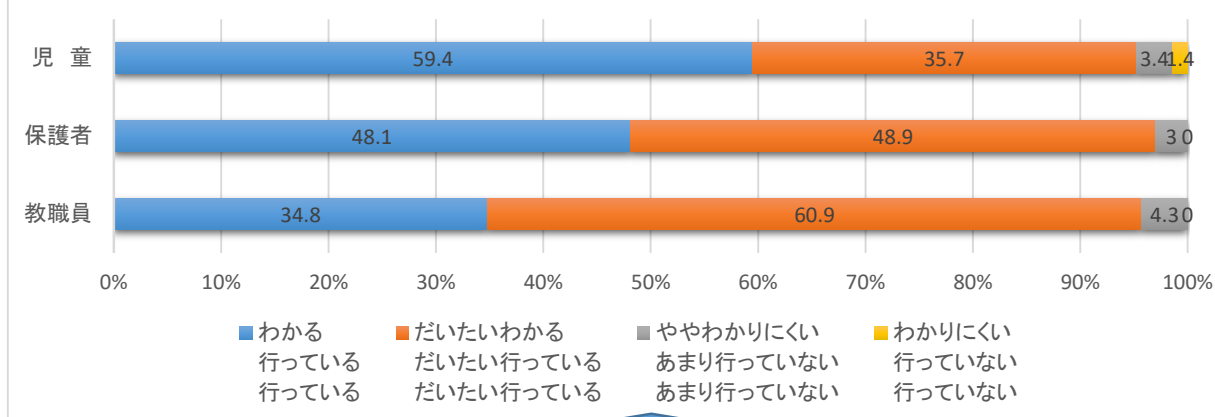
調査結果と考察

①「分かる授業」「楽しい授業」の充実

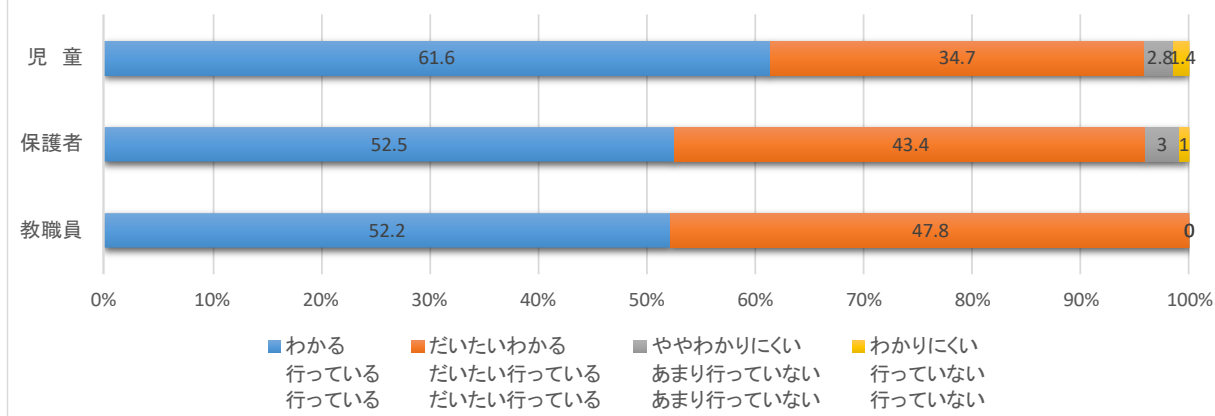
対象	質問事項
児童	あなたにとって、授業はわかりやすいですか？
保護者	教員は、わかりやすい授業を行っていると思いますか？
教職員	学校やあなたは、子どもたちにとって、わかりやすい授業や支援を行っていると思いますか？

	わかる 行っている 行っている	だいたいわかる だいたい行っている だいたい行っている	ややわかりにくい あまり行っていない あまり行っていない	わかりにくい 行っていない 行っていない	(%)		
教職員	34.8	60.9	4.3	0		教職員	23名
保護者	48.1	48.9	3	0		保護者	135名
児童	59.4	35.7	3.4	1.4		児童	207名

令和5年度「分かる授業」「楽しい授業」の充実



令和4年度「分かる授業」「楽しい授業」の充実



授業に対する肯定的な意見は、児童が95.1%、保護者が97%、教職員が95.7%となっている。アンケートの結果から、昨年度に引き続き、教師がわかりやすい授業を心がけているとともに、児童・保護者とも、授業について概ね「わかる授業」「楽しい授業」を行っていると感じているといえる。昨年度に引き続き、「豊かに思考し、表現する児童の育成」というテーマで、今年度は、特に「読むことを通して、自分の考えを伝え合い、思考の広がりや深まりをめぐらす」という『読むこと』に重点を置いて、授業研究を進め、研究発表会を行った。教職員の「行っている」という結果が、昨年度52.2%から今年度34.8%に下がったのは、積み上げた研修により、教師自身の授業に対する「わかる授業」の基準が厳しくなっているのかもしれない。また、4.8%の児童が「ややわかりにくい」「わかりにくい」と回答しているので、一人ひとりの学習状況やまずきを丁寧に把握し、個別の指導・支援が必要な児童への手立ても考えて実践していきたい。

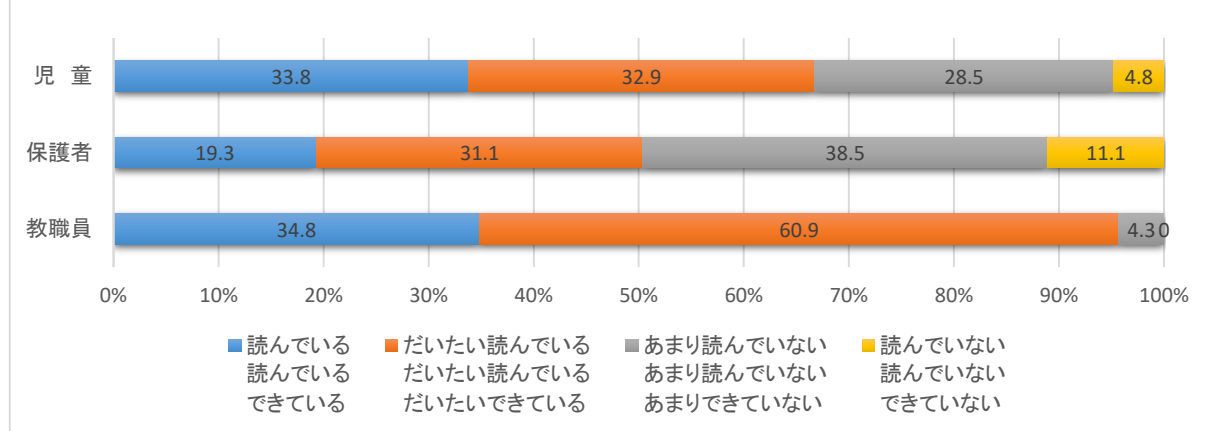
調査結果と考察

②読書活動の充実

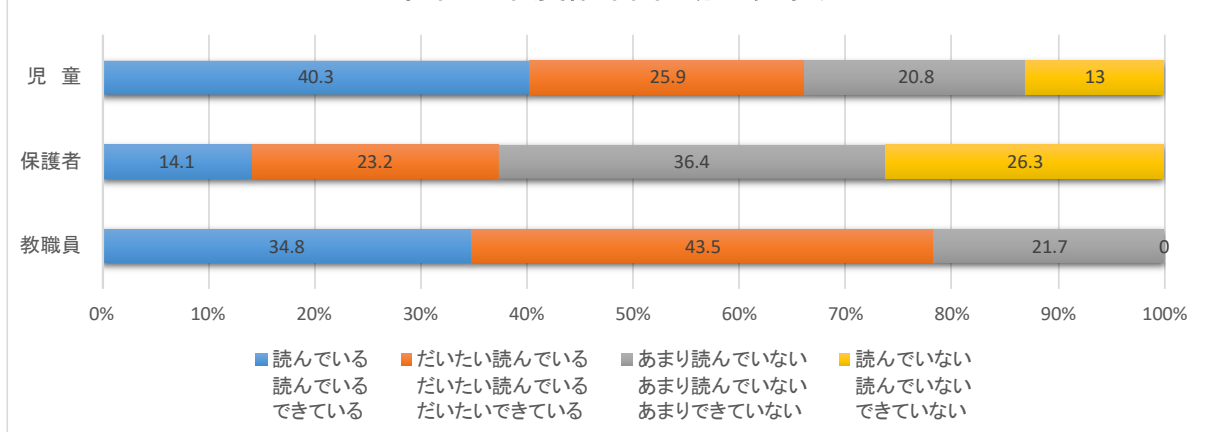
対象	質問事項
児童	あなたは、普段よく本を読んでいますか？
保護者	お子様は、普段よく本を読んでいますか？
教職員	学校やあなたは、本に親しめる子どもを育てることができていますか？

	読んでいる 読んでいる できている	だいたい読んでいる だいたい読んでいる だいたいできている	あまり読んでいない あまり読んでいない あまりできていない	読んでいない 読んでいない できていない	(%)		
教職員	34.8	60.9	4.3	0		教職員	23名
保護者	19.3	31.1	38.5	11.1		保護者	135名
児童	33.8	32.9	28.5	4.8		児童	207名

令和5年度読書活動の充実



令和4年度読書活動の充実



児童は「読んでいる」「だいたい読んでいる」が66.7%であった。保護者は「読んでいる」「だいたい読んでいる」が昨年度37.3%だったのが、今年度は50.4%、教職員は「できている」「だいたいできている」が昨年度78.3%だったのが、95.7%に上がった。また、「読んでいない」と回答した児童が昨年度13%だったのに対し、今年度は4.8%、保護者は昨年度「読んでいない」26.3%が今年度は11.1%と大幅に改善している。

その要因としては、今年度は、週程表の月曜日と金曜日に「朝読書」という時間を設定し、定着化させたとともに、各学級でビブリオバトルを進め、本に興味・関心をもたせる取組を継続してきたことが考えられる。また、図書館補助員の方と連携をし、国語科で学習している物語や説明文などの関連した本をピックアップし、教室内に提示することで、手軽に本を手にするような工夫もしてきた。

次年度も、現在実施している読書活動を継続していくとともに、家庭にも学校の取組を積極的に発信をして、家庭での読書活動も啓発していきたい。

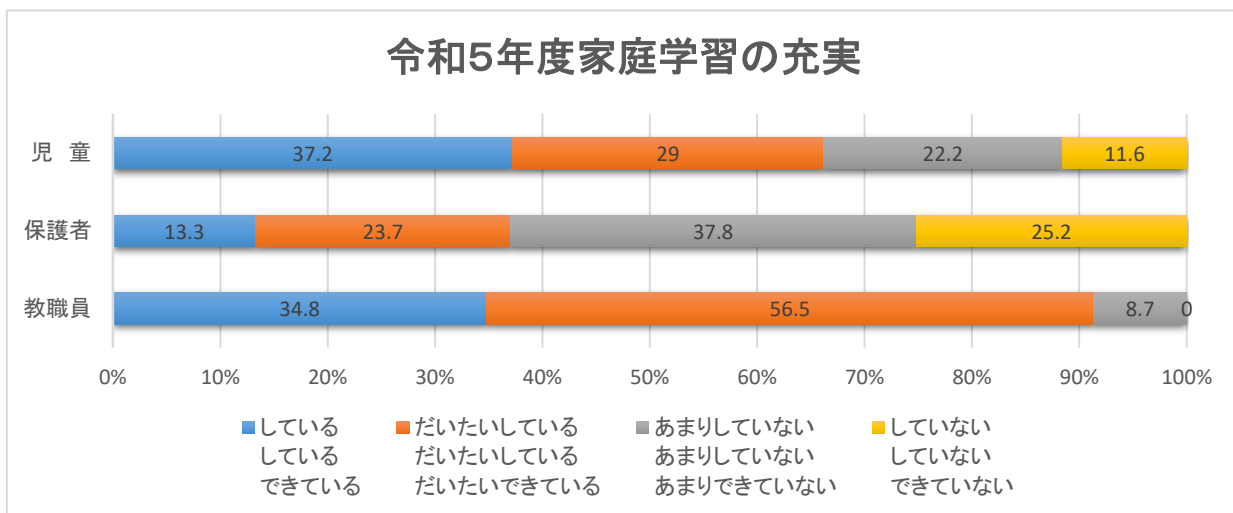
調査結果と考察

③家庭学習の充実

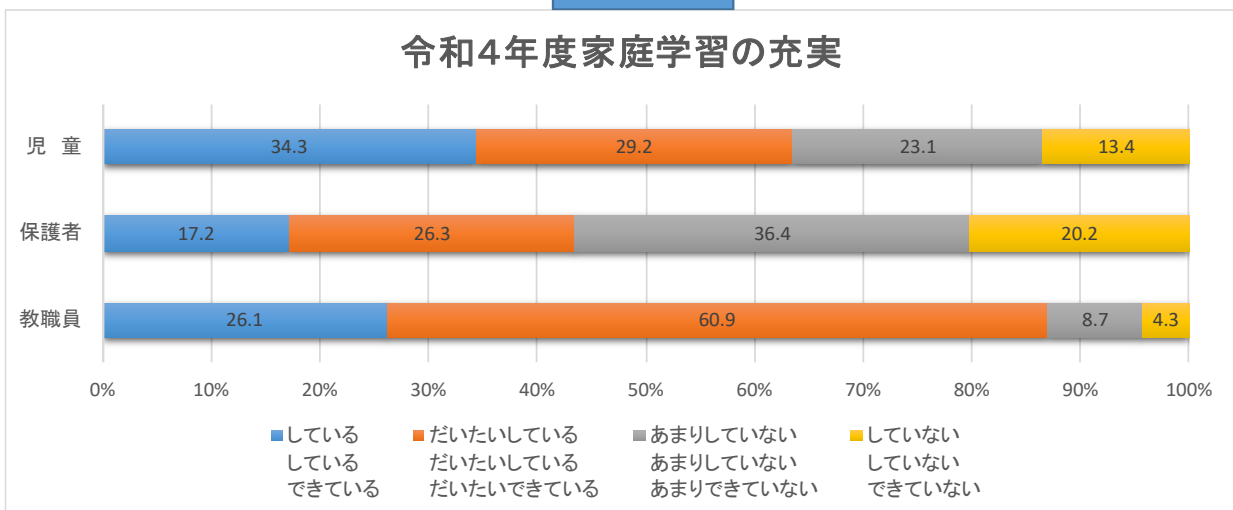
対象	質問事項
児童	あなたは、お家で宿題や習い事以外で自分で自主的に学習していますか？
保護者	お子様は、お家で宿題や習い事以外で自分で自主的に学習していますか？
教職員	学校やあなたは、自主学習をする子どもを育てることができていますか？

	している している できている	だいたいしている だいたいしている だいたいできている	あまりしていない あまりしていない あまりできていない	していない していない できていない	(%)
教職員	34.8	56.5	8.7	0	教職員 23名
保護者	13.3	23.7	37.8	25.2	保護者 135名
児童	37.2	29	22.2	11.6	児童 207名

令和5年度家庭学習の充実



令和4年度家庭学習の充実



自分で自主的に学習していると肯定的に回答している児童は66.2%。保護者の肯定的な回答は37%。教職員は91.3%となっている。

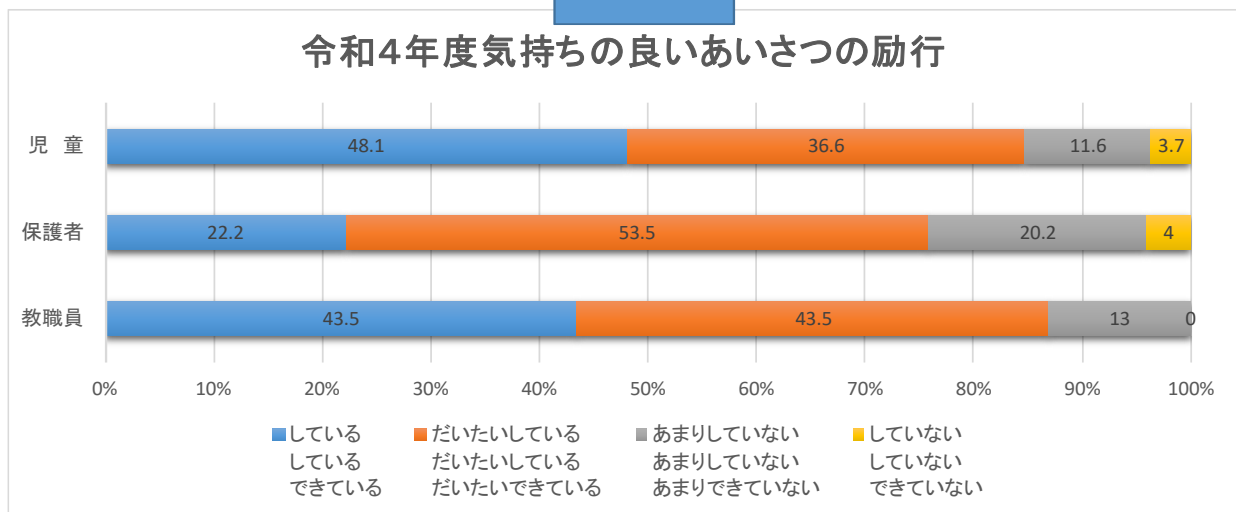
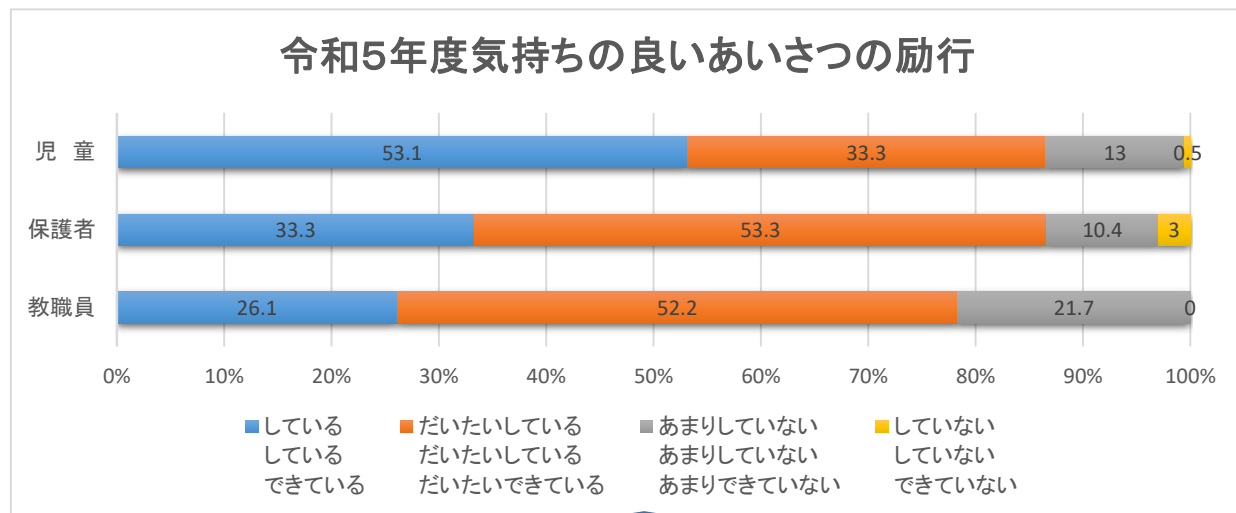
自主学習を進めようとしている一方、昨年度に引き続き児童は6割程度、保護者も4割程度しか、自主的に学習している実感を感じていないようである。今年度も、「家庭学習の手引き」を配布したり、ノート書き方や学習の仕方を児童が互いに学び合えるよう、教室や昇降口に自主学習ノートも掲示してきたりして取組を進めてきた。この取組を継続していくとともに、児童が自ら課題を設定し、解決に向けて情報を収集・整理・分析をしたり、周囲の人と意見交換・協働していく探究学習を積極的に取り入れるなどをして意識を高めていきたい。

調査結果と考察

④気持ちの良いあいさつの励行

対象	質問事項
児童	あなたは、気持ちの良いあいさつをしていますか？
保護者	お子様は、気持ちの良いあいさつをしていますか？
教職員	あなたは、気持ちの良いあいさつができる子どもを育てることができていますか？

	している している できている	だいたいしている だいたいしている だいたいできている	あまりしていない あまりしていない あまりできていない	していない していない できていない	(%)		
教職員	26.1	52.2	21.7	0		教職員	23名
保護者	33.3	53.3	10.4	3		保護者	135名
児童	53.1	33.3	13	0.5		児童	207名



児童は「している」「だいたいしている」が86.4%。保護者は「している」「だいたいしている」が昨年度75.7%だったのが今年度86.6%に上がった。教職員は「できている」「だいたいできている」が78.3%である。

今年度も、教師が校門に立ち、あいさつ運動を展開したり、委員会からの呼びかけ等により、あいさつができるような取組を行ってきた。また、新型コロナウイルス感染症が第5類になり、マスク着用の義務がなくなり、あいさつに対する抵抗がなくなったことも影響しているのかもしれない。あいさつは教職員や保護者などの大人がお手本となるようなあいさつをすることが大切である。教職員のあいさつの指導の肯定的な意見が、昨年度より低下していることから、教職員自ら気持ちの良いあいさつを行うことで、自らあいさつができる児童を育て、児童のコミュニケーションを広げる第一歩としていきたい。

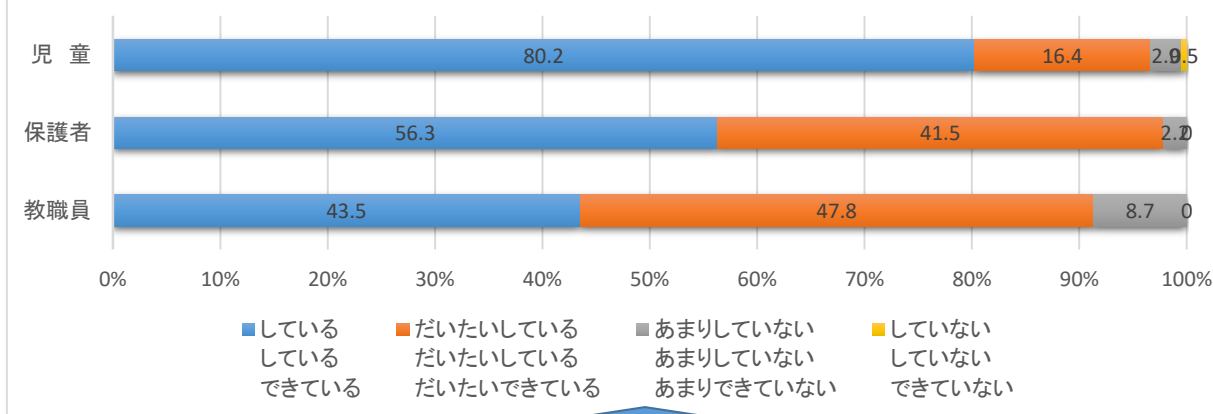
調査結果と考察

⑤仲間を大切にし、支え合う関係づくり

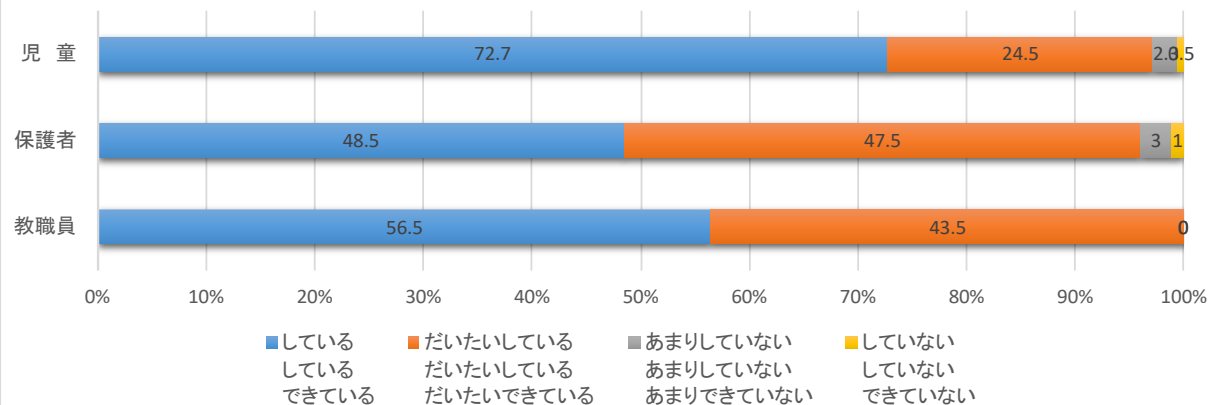
対象	質問事項
児童	あなたは、友達を大切にし、協力したり助けたりしていますか？
保護者	お子様は、友達を大切にし、協力したり助けたりしていますか？
教職員	学校やあなたは、仲間を大切にし、支え合う関係ができる子どもを育てることができていますか？

	している している できている	だいたいしている だいたいしている だいたいできている	あまりしていない あまりしていない あまりできていない	していない していない できていない	(%)		
教職員	43.5	47.8	8.7	0		教職員	23名
保護者	56.3	41.5	2.2	0		保護者	135名
児童	80.2	16.4	2.9	0.5		児童	207名

令和5年度仲間を大切にし、支え合う関係づくり



令和4年度仲間を大切にし、支え合う関係づくり



児童の肯定的な回答は96.6%、保護者は97.8%、教職員は91.3%である。また、児童の「している」は昨年度72.7%から80.2%に、保護者の「している」は昨年度48.5%から56.3%に上がっている。その要因としては、今年度はコロナ禍もあけ、チャレンジ班の活動として、異学年で活動することが増え、たてのつながりを深めることができたことが考えられる。休み時間には異学年の児童と一緒に遊んでいる姿も多く見られた。また、各学年による人権集会や全校による人権集会を行うことで、一人ひとりが人権問題について考え、発表を行い、人権学習に取り組んできた。これからも、さまざまな活動を通して、なかま意識の向上、支え合える関係の深まりをめざしていきたい。

しかし、仲間を大切にしようとする児童が多い反面、少数であるが「あまりしていない」「していない」児童もいるので、孤立している児童がいないか、しっかり把握し、そのような児童がいれば声をかけて指導・支援をしていきたい。また、保護者と連携し、「早期対応」「子どもに寄り添う指導」することを常に心がけていきたい。

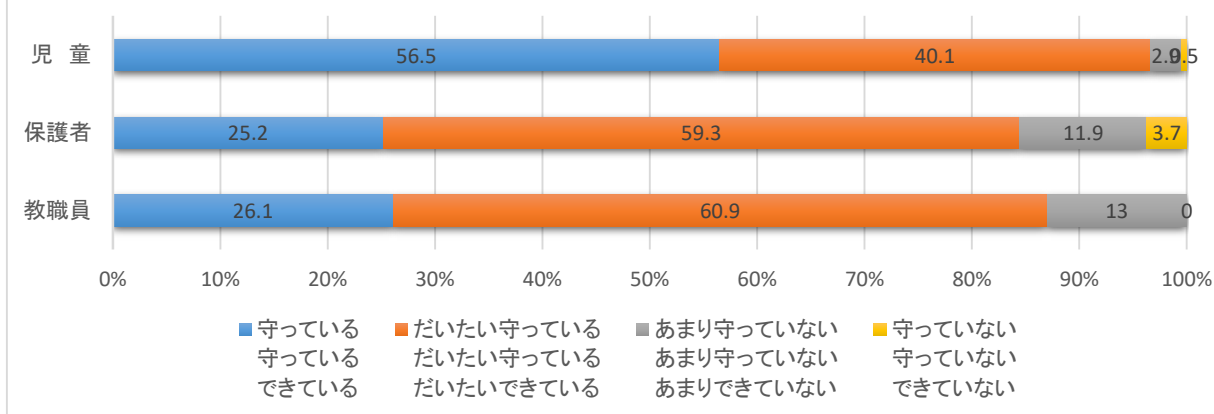
調査結果と考察

⑥決まりや約束を守る自律心の育成

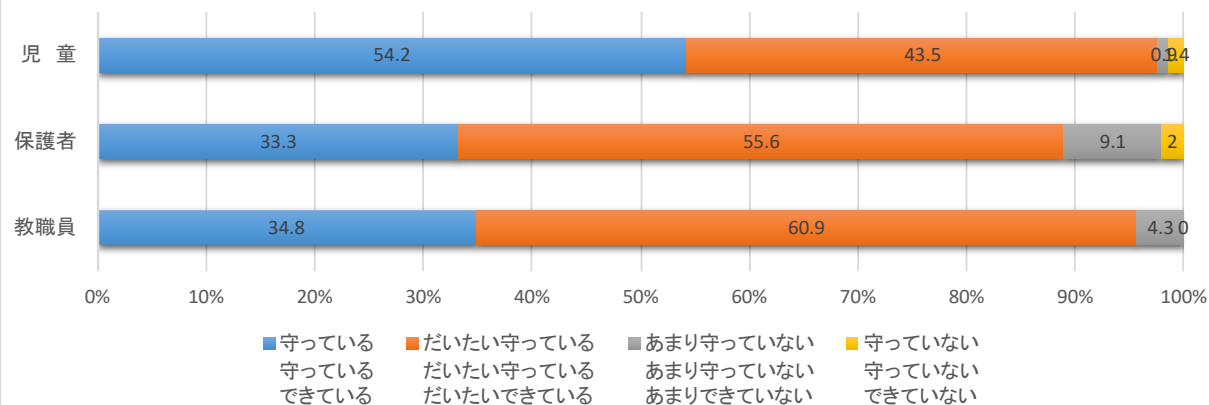
対象	質問事項
児童	あなたは、決まりや約束を守って生活をしていますか？
保護者	お子様は、決まりや約束を守って生活をしていますか？
教職員	学校やあなたは、決まりや約束を守る子どもを育てることができていますか？

	守っている 守っている できている	だいたい守っている だいたい守っている だいたいできている	あまり守っていない あまり守っていない あまりできていない	守っていない 守っていない できていない	(%)		
教職員	26.1	60.9	13	0		教職員	23名
保護者	25.2	59.3	11.9	3.7		保護者	135名
児童	56.5	40.1	2.9	0.5		児童	207名

令和5年度決まりや約束を守る自律心の育成



令和4年度決まりや約束を守る自律心の育成



児童の96.6%、保護者の84.5%、教職員の87%が肯定的な評価である。しかし、昨年度より、若干肯定的な回答が減っていることが気になる。また、保護者の「あまり守っていない」の11.9%と「守っていない」の3.7%を合わせて15.6%(昨年度11.1%)が規範意識が低いと感じておられる。

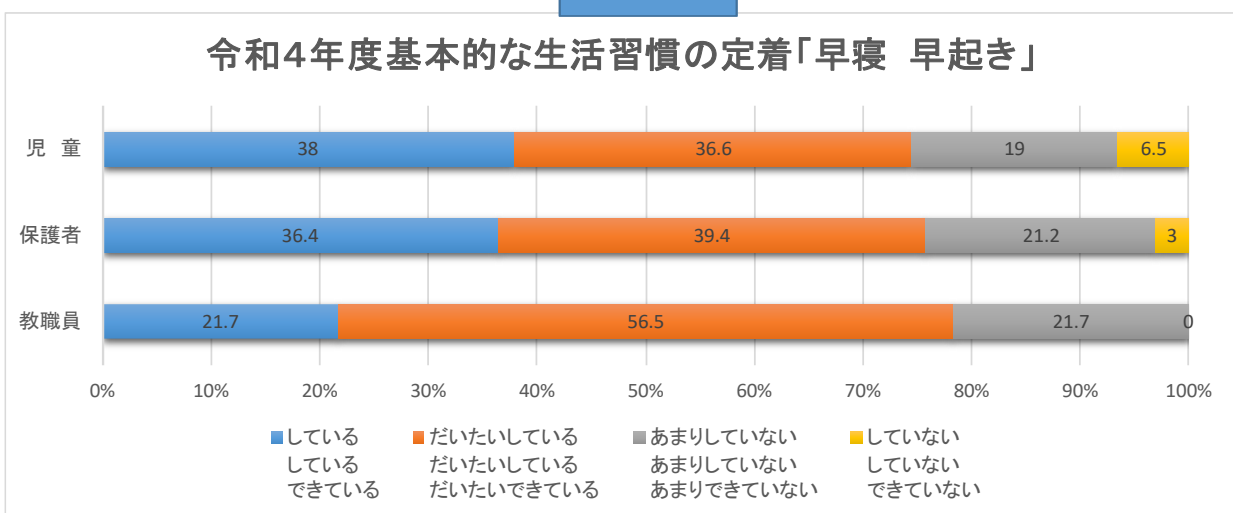
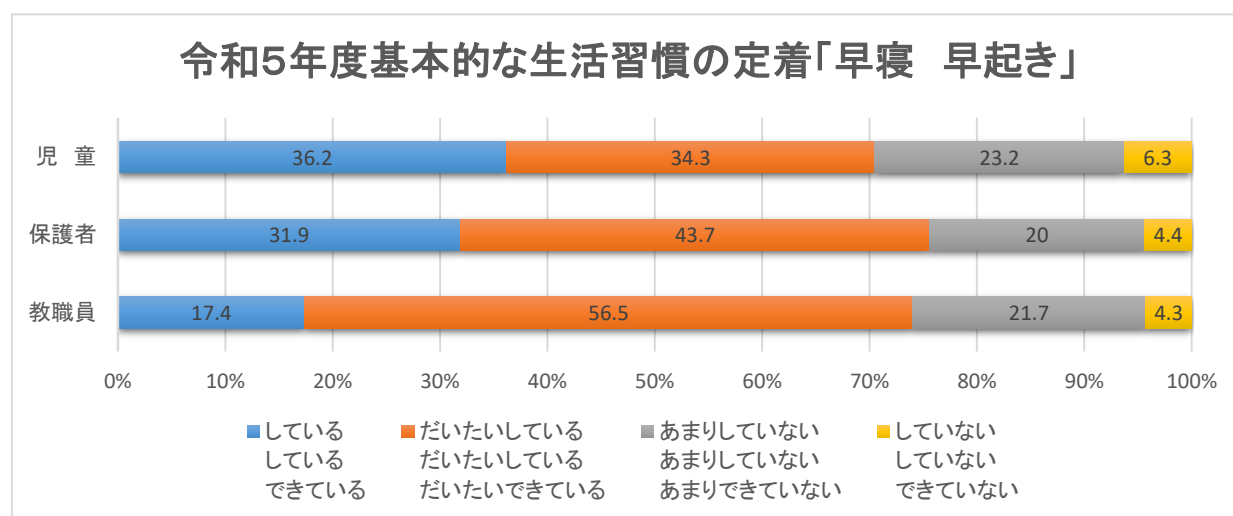
学校には、自分もまわりの児童も授業や学習に集中できるようにするために、また健康で安全に生活を送ることができるように、様々な決まりや約束があるが、こまかなルールなども含め、しっかりと守れるように、決まりや約束がある意義を学校全体・学年・学級で適宜指導を行っていきたい。また、教職員も「北小っ子のくらし」について共通理解を深め、たくさんの目で一人ひとりの児童を見守り、保護者の方にも、ご理解、ご協力をいただけるように、粘り強く指導・支援をしていきたい。また、地域、保護者と教職員とが連携しながら、今後も自律的な児童、規範意識の高い児童を育てていきたい。

調査結果と考察

⑦基本的な生活習慣の定着「早寝 早起き」

対象	質問事項
児童	あなたは、早寝、早起きをしていますか？
保護者	お子様は、早寝、早起きをしていますか？
教職員	学校やあなたは、早寝、早起きができる子どもを育てることができていますか？

	している している できている	だいたいしている だいたいしている だいたいできている	あまりしていない あまりしていない あまりできていない	していない していない できていない	(%)		
教職員	17.4	56.5	21.7	4.3		教職員	23名
保護者	31.9	43.7	20	4.4		保護者	135名
児童	36.2	34.3	23.2	6.3		児童	207名



児童の70.5%、保護者の75.6%、教職員の73.9%が肯定的な回答である。一方で、児童、保護者の4分の1が生活リズムに課題があると捉えている。

学力向上、体力向上の不可欠な要素として、基本的な生活習慣の向上があげられる。早寝早起きなどの睡眠時間の確保はもちろんのこと、栄養のバランスの良い食事の摂取、運動遊びなどの適度な運動をすることが学力向上や体力向上につながっていく。

学校では、保護者も参加できる学校保健委員会を実施している。また、学級担任や養護による保健指導もより一層充実させていく予定である。

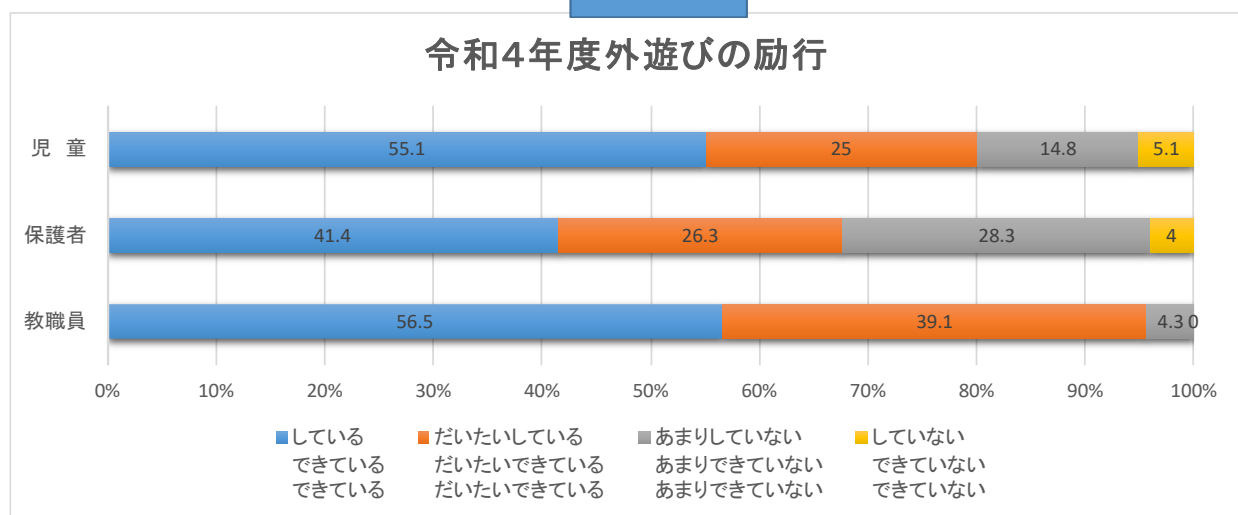
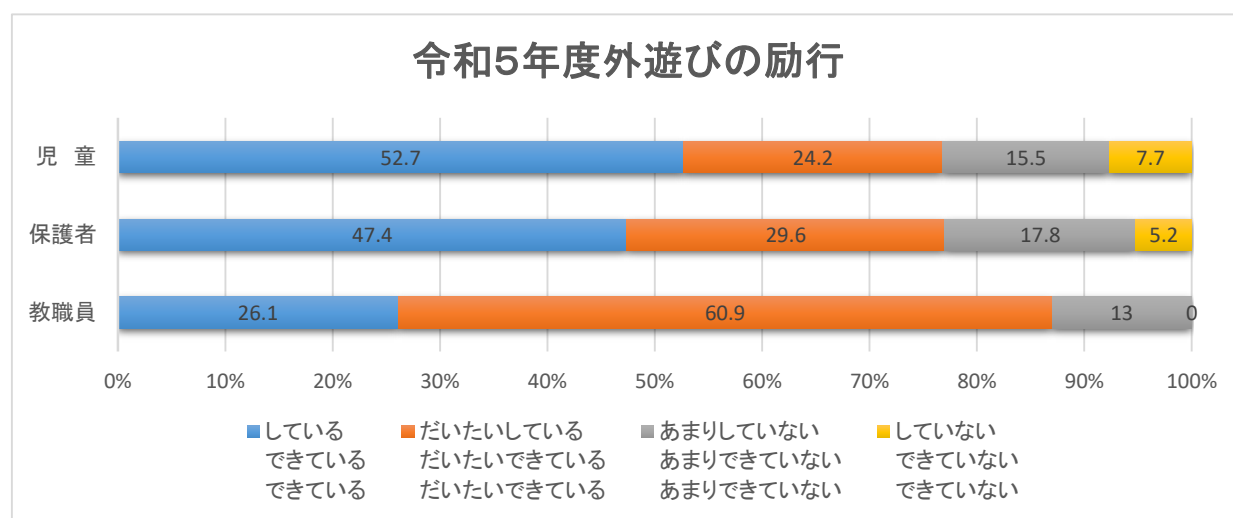
家庭でもテレビ・ゲーム・スマホをする時間を決めるなど、ご協力をいただくことで、家庭と学校が連携して、児童の基本的な生活習慣の改善に向けて取り組んでいきたい。

調査結果と考察

⑧外遊びの励行

対象	質問事項
児童	あなたは、学校の休み時間や放課後に外で運動遊びをしていますか？
保護者	お子様は、運動に親しむことができますか？
教職員	学校やあなたは、外で運動遊びをする子どもを育てることができますか？

	している できている できている	だいたいしている だいたいできている だいたいできている	あまりしていない あまりできていない あまりできていない	していない できていない できていない	(%)
教職員	26.1	60.9	13	0	教職員 23名
保護者	47.4	29.6	17.8	5.2	保護者 135名
児童	52.7	24.2	15.5	7.7	児童 207名



肯定的に答えた児童は76.9%である。学校では、給食時間に外遊びを促したり、学校の休み時間、体育館を開放し、室内ではあるが、運動遊びをする機会を確保したりしている。しかし、昨年度と比べると児童の外遊びの意識はやや低下傾向である。教員の意識も低下傾向にあるので、今後は積極的に外遊びをしていくような声かけをしていったり、休み時間に楽しく外遊びができるように委員会で集会を開いたりして、外に出ることができる機会をつくっていききたい。また、体育科の授業等を通して、様々な運動にチャレンジし、運動する楽しさを体感させ、生涯スポーツにつなげていきたい。

地域の方からは、地域の公園でたくさんの子どもの外遊びをしているという声も聞いている。新庄北小学校は広い運動場があり、それに低学年広場もある。今年度は、高学年を中心に放課後に外遊びをする児童が多く見受けられた。学校では、平日、運動場や低学年広場を開放している。次年度は、北小だより等で、開放時間等を伝え、放課後に課題である運動遊びができる場所も確保していきたい。

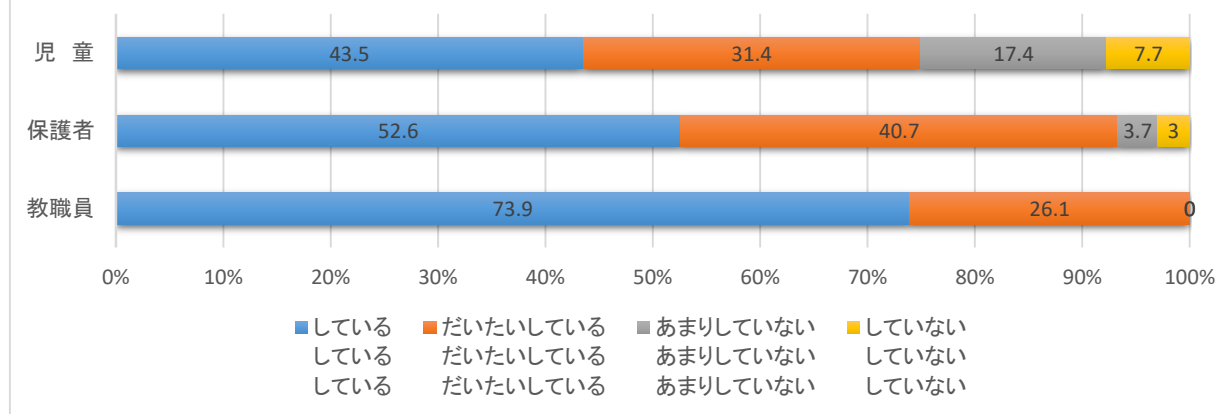
調査結果と考察

⑨信頼に応える教職員、保護者との連携

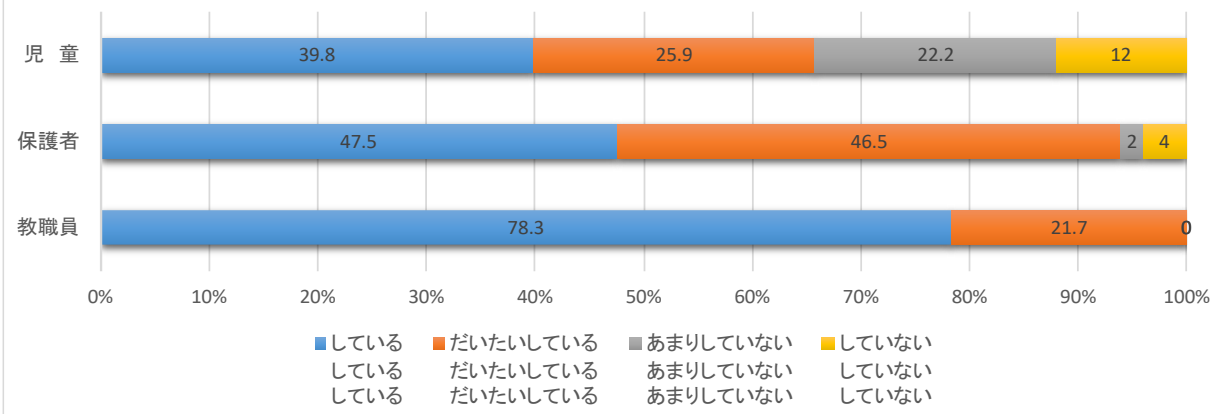
対象	質問事項
児童	あなたは、困ったときに先生にも相談をしますか？
保護者	学校や教員は、お子様や保護者の相談(思いや考え)を受け止めようとしていますか？
教職員	学校やあなたは、子どもたちや保護者の相談(思いや考え)を受け止めようとしていますか？

	している している している	だいたいしている だいたいしている だいたいしている	あまりしていない あまりしていない あまりしていない	していない していない していない	(%)		
教職員	73.9	26.1	0	0		教職員	23名
保護者	52.6	40.7	3.7	3		保護者	135名
児童	43.5	31.4	17.4	7.7		児童	207名

令和5年度信頼に応える教職員、保護者との連携



令和4年度信頼に応える教職員、保護者との連携



昨年度に比べ、肯定的な回答の児童が9.2%増え、74.9%であった。児童が困ったときに先生に相談している児童が多くなった。しかし、まだ、約25%の児童が「あまりしていない」「していない」と回答しているので、児童が困ったときに相談しやすいように、児童の心に寄り添う指導・支援を今後も心がけていきたい。

保護者の肯定的な回答が93.3%であった。ほとんどの保護者が学校や教職員の姿勢や取組を肯定的に受け止めていただいているので、今後も家庭訪問や個人懇談、学級懇談会、電話連絡等、家庭との連携を密にし、理解や協力が得られるように取り組んでいきたい。

教職員は「アンテナは高く、目線は低く」ということを常に意識しながら、児童の日々の変化を見逃さず、積極的に声をかけるとともに、児童の悩みや不安を相談しやすいような雰囲気や学級づくりに努めていきたい。

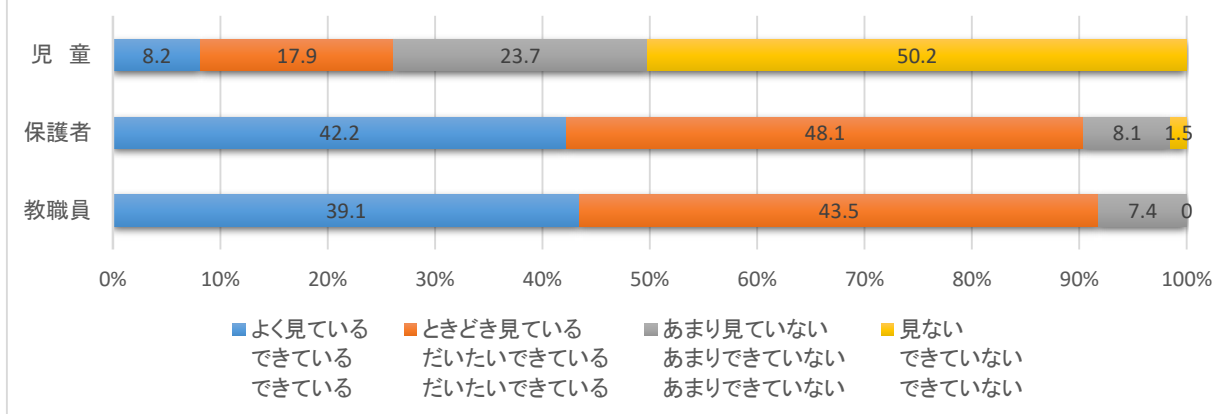
調査結果と考察

⑩学校での教育活動を積極的に発信

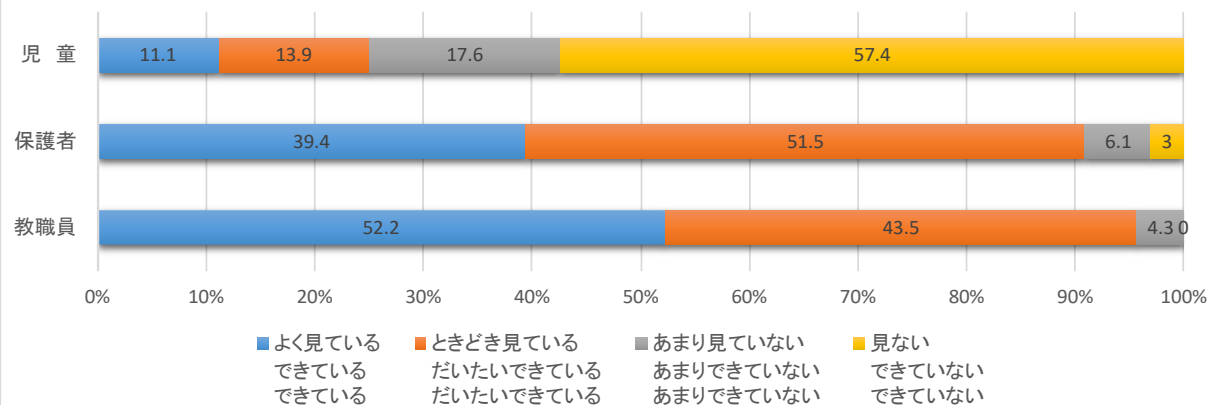
対象	質問事項
児童	あなたは、学校のホームページをみますか？
保護者	学校は、各種たよりやホームページ等を通して、家庭に学校の情報を伝えることができますか？
教職員	学校やあなたは、各種たより(学級通信等も含む)やホームページ等を通して、家庭に学校の情報を伝えることができますか？

	よく見ている できている できている	ときどき見ている だいたいできている だいたいできている	あまり見ていない あまりできていない あまりできていない	見ない できていない できていない	(%)		
教職員	39.1	43.5	7.4	0		教職員	23名
保護者	42.2	48.1	8.1	1.5		保護者	135名
児童	8.2	17.9	23.7	50.2		児童	207名

令和5年度学校での教育活動を積極的に発信



令和4年度学校での教育活動を積極的に発信



学校の情報発信に肯定的な保護者の回答は90.3%であった。昨年度同様、tetoru配信やホームページを見る機会を多いことがわかる。今後も、tetoru配信やホームページを活用し、学校の取組を発信していきたい。

しかし、児童の肯定的な回答は26.1%であり、今年度も児童は学校のホームページをあまり見ていないことがわかった。ホームページには、学校や学年、学級の取組を掲載しているページもあるので、今後、学校でホームページを閲覧する活動を取り入れるなどをして、児童にもホームページに興味・関心をもって見る機会をつくっていきたい。

教職員の「よくできている」層が昨年度より低下している。今後は、時間の確保を工夫して、情報発信ができるようにしていきたい。